

宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：宮崎大学（総括責任者：菅沼 龍夫）

プロジェクトの概要

学長統括の研究組織 Interdisciplinary Research Organization (IR 推進機構) の下、異分野融合型研究推進のため、自立した研究環境やスタートアップ経費等の措置、大学院生の研究指導を行わせる。分野の異なる本学教員 2 名と著名な海外研究者 1 名が指導・助言を行う体制を組織する。特任助教の採用は、外国在住者（外国籍を含む）、女性研究者を優先する。テニユア職への採用は、外部委員を含む若手人材選考評価委員会の審査により希望部局へ准教授として配属する。事業終了後は、本取組を継続・発展させ、重点研究領域の中核を担う若手研究者を育成する宮崎大学型若手研究リーダー育成制度を構築する。

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
S	a	s	s	s

(1) 評価結果

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

中規模総合大学が世界的研究拠点構築を目指して、機関の研究戦略に基づく重点研究分野に焦点を絞り学部・学部の垣根を越えた異分野融合型研究を推進するという明確な目的の下、異分野融合型研究分野で活躍できる優秀な若手研究リーダーとしてのテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の育成を目標としている。外部評価も既に受け、学長のリーダーシップの下、PDCA サイクルを活用し、テニユアトラック制（以下、「TT 制」という）を全学に展開しようとする点が特に高く評価できる。若手教員の採用において 25%まで高めるという高い意欲を持って進められており、特徴ある人事システムの改革が進展することが期待できる。

- ・ **国際公募・選考・業績評価**：TT 若手の募集方法や選考審査については十分に公平で透明性の高いものとなっており、公募要項に中間評価やテニユア審査基準も明示され、十分に配慮されたものとなっており、評価できる。外国籍と女性研究者の採用に関する高い目標が未達であり今後の工夫を期待する。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：育成環境も十分に整備され、特にトロイカサポーター制という複数のメンターを配置し、工夫されたアドバイザーシステムを有効に機能させ、また、TT 若手の教育経験についても重視し、研究指導認定も進んでいることは高く評価できる。男女共同参画に対する高い配慮や、必要な TT 若手に対し海外派遣の機会を与える計画は具体的な成果が期待できる。
- ・ **制度設計に対するマネジメント**：PDCA サイクルを活用し、学長の強いリーダーシップが発揮されている。平成 23 年度及び平成 24 年度に採用予定の TT 若手のテニユアポストは、学長管理定員ではなく部局長との協議の上、関係学部の既存の定員を用いて確保することとしており、TT 制の学内への拡大は高く評価できる。
- ・ **今後の進め方における取組**：IR 推進機構をテニユアトラック推進機構へと展開させ、全学へ TT 制を取り入れようとする着実な制度設計が進められており、今後の展開が大いに期待できる。